



第10回海洋立国推進功労者表彰
(平成29年8月28日、総理官邸大ホール)

CONTENTS

平成30年度水産予算概算要求の概要について	2
	漁政部 漁政課
お知らせ～第10回海洋立国推進功労者表彰について～	7
回遊魚	7
	水産庁次長 山口英彰
平成29年8月分のプレスリリース	8

平成30年度水産予算概算要求の概要について

漁政部 漁政課

平成30年度水産予算概算要求については、本年4月28日に閣議決定された新たな「水産基本計画」の実現のため、本年6月9日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2017」及び「未来投資戦略2017」等に基づき、漁業の成長産業化や資源管理の高度化を目指し、以下を主要事項として概算要求を行っています。

(1) 資源調査の充実による資源管理の高度化

資源状況の把握に関する精度向上や資源評価・管理に資するネットワーク等を構築するとともに、国内資源管理の高度化と国際的な資源管理を推進

(2) 漁業経営安定対策

計画的に資源管理等に取り組む漁業者に対する共済・積立ぷらすを活用した収入安定対策、燃油や配合飼料の価格上昇に対するコスト対策等を実施

(3) 漁業の成長産業化

各浜が持つ強みを最大限活用し、所得の向上を実現するため、漁業経営の持続力・収益力向上に向けた意欲ある漁業者の取組や漁船漁業の構造改革、多様なニーズに即した加工・流通体制の構築、輸出環境の整備等を支援

(4) 増養殖対策

資源造成効果等の実証、さけ・ますの種苗放流手法の改良、低魚粉配合飼料による養殖技術の確立・普及、養殖に適した家系の作出、養殖飼料の供給・調達の効率化に向けたシステム構築、カワウ・外来魚の被害防止対策等を支援

(5) 漁場環境保全・技術開発・普及推進

有害生物・赤潮等の漁業被害防止対策や漁場環境改善対策により海洋生態系を維持しつつ、ICTや漁船安全に係る新技術の実証等を実施

(6) 水産多面的機能の発揮対策と離島漁業の再生支援

漁業者等が行う藻場・干潟の保全、国境・水域の監視等の地域活動を支援するとともに、離島における漁業集落の再生活動を支援

(7) 外国漁船操業対策等

我が国周辺海域における水産資源の管理と操業秩序の維持のため、外国漁船の違法操業等に対する漁業取締体制等を維持・強化

(8) 捕鯨対策

妨害活動対策を含めた鯨類科学調査の安定的な実施、持続的利用に向けた関係国との連携強化の支援とともに、調査母船のあり方を含めた我が国の目指すべき捕鯨の姿について検討

(9) 水産基盤整備事業＜公共＞

流通拠点となる漁港の集出荷機能の集約・強化や衛生管理対策、増養殖場等の生産機能の強化対策、水産資源の回復対策、漁業地域の地震・津波対策、漁港施設の長寿命化対策や有効活用を推進

以上により、平成30年度水産予算の概算要求・要望額は、2,062億円（前年度予算額 1,774億円）となっており、非公共予算で1,203億円（前年度予算額 1,056億円）、公共予算で859億円（前年度

予算額718億円)となっています。

本稿においては、平成29年9月に公表しました「平成30年度水産予算概算要求の概要」に基づき、主要な対策毎にポイント、主な事業名及び要求額・要望額を記載しています。

※本文中の()内の数字は前年度(平成29年度)の当初予算額です。

平成30年度水産予算概算要求の概要

事 項	平成29年度 予 算 額	平成30年度 要求・要望額	対前年度比
	百万円	百万円	%
合 計	177,391	206,180	116.2
非 公 共	105,574	120,283	113.9
公 共	71,817	85,897	119.6

(注) 1. 金額は関係ベース。

2. 計数は、四捨五入のため、端数において合計と一致しないものがあります。

3. 上記の他、農山漁村地域整備交付金(水産関係分)11,193百万円があります。

※ 東日本大震災復旧・復興対策については、水産関係を含め一括して復興庁より要求されています。

※ 日EU・EPAの大枠合意を踏まえ、本年秋を目途に改訂することとされた「総合的なTPP関連政策大綱」の実現に必要な経費については、予算編成過程で検討されます。

1 資源調査の充実による資源管理の高度化

【5,999(4,341)百万円】

- ・ 資源管理目標の設定やTAC魚種の拡大等に向けたより一層の情報収集や資源評価の精度向上を図るため、資源調査・研究を充実します。
- ・ 個別割当(IQ)方式等の実証試験調査を実施するとともに、資源管理計画の評価・検証の結果を踏まえて、より高度かつ効果的な資源管理措置の導入に向けた取組を支援します。

<主な内容>

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 我が国周辺水産資源調査・評価推進事業 | 1,817(1,631)百万円 |
| 2. 国際水産資源調査・評価推進事業 | 1,800(1,493)百万円 |
| 3. 資源・漁獲情報ネットワーク構築事業[新規] | 1,000(ー)百万円 |
| 4. 包括的な国際資源管理体制構築事業 | 451(451)百万円 |
| 5. EEZ内資源・漁獲管理体制強化事業[新規] | 750(ー)百万円 |

2 漁業経営安定対策

【24,680(25,018)百万円】

- ・ 計画的に資源管理等に取り組む漁業者に漁業収入安定対策を実施するとともに、燃油・養殖用配合飼料価格の上昇に備えるセーフティーネット事業を組み合わせ、適切な資源管理と総合的な漁業経営の安定を図ります。
- ・ 設備投資の促進を図るため、融資の金利負担を軽減(実質無利子化)するとともに、保証人を不要とし担保は漁業関係資産に限る融資を支援します。
- ・ 県域での漁協の広域合併等を促進することにより、漁協経営の効率化・基盤強化を推進します。

<主な内容>

1. 漁業収入安定対策事業等	23,132 (23,427) 百万円
2. 漁業経営セーフティーネット構築事業	162 (180) 百万円
3. 漁協経営基盤強化促進事業	221 (253) 百万円
4. 漁業経営基盤強化金融支援事業	107 (127) 百万円
5. 漁業者保証円滑化対策事業	305 (335) 百万円
6. その他の漁業経営安定対策	753 (695) 百万円

3 漁業の成長産業化**【19,767 (12,954) 百万円】**

各浜が持つ強みを最大限活用し、漁業所得の向上を実現するため、漁業経営の持続力・収益力向上に向けた意欲ある漁業者の取組や、多様なニーズに即した加工・流通体制の構築を支援します。

<主な内容>

1. 漁業構造改革総合対策事業	7,000 (4,000) 百万円
2. 浜の活力再生交付金	7,024 (5,400) 百万円
(1) 浜の活力再生プラン推進事業	124 (50) 百万円
(2) 水産業強化支援事業	6,900 (5,350) 百万円
3. 浜と企業の連携円滑化事業 [新規]	165 (－) 百万円
4. 漁業人材育成総合支援事業	1,077 (927) 百万円
5. 漁船労働環境改善事業 [新規]	1,033 (－) 百万円
6. 漁港機能増進事業	1,600 (1,000) 百万円
7. 漁業労働安全確保総合支援事業 [新規]	21 (－) 百万円
8. 加工・流通の高度化	1,646 (1,391) 百万円
(1) 水産物輸出倍増環境整備対策事業	205 (205) 百万円
(2) 国産水産物流通促進・消費拡大総合対策事業 [新規]	1,239 (－) 百万円
(3) 水産物流通調査事業 [新規]	80 (－) 百万円
(4) 酸素充填解凍を用いた生鮮用冷凍水産物の高品質化技術開発 [新規]	50 (－) 百万円
(5) 日本発の水産エコラベル普及推進事業 [新規]	72 (－) 百万円

4 増養殖対策**【1,567 (1,435) 百万円】**

持続的な漁業・養殖業の確立のため、

- ・ 広域種の資源造成実証試験等の栽培漁業対策及びサケ回帰率回復のためのサケ・マスふ化放流事業対策
 - ・ 低魚粉配合飼料による養殖技術の確立・普及や養殖に適した家系の作出等の養殖業対策
 - ・ カワウ・外来魚の被害防止対策等の内水面漁業・養殖業対策
- を支援します。

<主な内容>

1. 増殖に関する支援事業	558 (489) 百万円
(1) 栽培漁業総合推進事業	125 (117) 百万円

(特定有人国境離島関連対策)

特定有人国境離島地域での雇用機会の拡充等に資するため、以下の事業について優先採択枠を設定することにより活用を促進します。

1. 漁業人材育成総合支援事業
2. 農業次世代人材投資事業
3. 農の雇用事業
4. 食料産業・6次産業化交付金のうち加工・直売の推進及び加工・直売施設整備
5. 森林・山村多面的機能発揮対策
6. 水産多面的機能発揮対策（再掲）

7 外国漁船操業対策等**【20,740（13,250）百万円】**

我が国周辺海域における水産資源の管理と操業秩序の維持のため、外国漁船の違法操業等に対する漁業取締体制等を維持・強化します。

<主な内容>

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 漁業取締りの強化等 | 15,477（12,987）百万円 |
| 2. 韓国・中国等外国漁船操業対策事業〔新規〕 | 3,000（－）百万円 |
| 3. 沖縄漁業基金事業〔新規〕 | 2,000（－）百万円 |

8 捕鯨対策**【5,062（5,062）百万円】**

妨害活動対策を含めた鯨類科学調査の安定的な実施、持続的利用に向けた関係国との連携強化の支援とともに、調査母船のあり方を含めた我が国の目指すべき捕鯨の姿について検討します。

<主な内容>

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 鯨類捕獲調査円滑化等対策 | 4,211（3,870）百万円 |
| 2. 鯨資源調査等対策推進費 | 346（346）百万円 |
| 3. 日本沿岸域鯨類調査事業 | 506（506）百万円 |

9 水産基盤整備事業<公共>**【84,000（70,000）百万円】**

- ・消費・輸出の拡大に向けて、漁港における集出荷機能の集約・強化や衛生管理対策など、安全で安定した水産物の供給体制の確立を推進します。
- ・自然災害に強く安全で安心な漁業地域の実現に向けて、漁港施設の防災・減災対策を計画的に推進します。

<主な内容>

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 国産水産物の衛生管理や安定供給のための基盤強化対策 | 43,880（35,145）百万円 |
| 2. 災害に強い漁業地域づくりのための漁港施設の防災・減災対策、既存ストックの有効活用 | 40,120（34,855）百万円 |

(関連対策)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 漁港機能増進事業<非公共>（再掲） | 1,600（1,000）百万円 |
|-------------------|-----------------|

(2) さけ・ます資源回復推進事業	386 (326) 百万円
(3) 二枚貝資源緊急増殖対策事業	47 (47) 百万円
2. 養殖に関する支援事業	285 (236) 百万円
(1) 戦略的魚類養殖推進事業 [新規]	172 (―) 百万円
(2) クロマグロ養殖用の高機能、高効率餌料の開発事業	53 (53) 百万円
(3) 真珠養殖業等連携強化・成長展開事業	23 (25) 百万円
(4) 環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業 [新規]	38 (―) 百万円
3. ウナギ対策関連事業	466 (457) 百万円
(1) ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業	310 (310) 百万円
(2) 鰻供給安定化事業	156 (147) 百万円
4. 健全な内水面生態系復元等推進事業	257 (253) 百万円

5 漁場環境保全・技術開発・普及推進

【1,580 (1,466) 百万円】

- ・ トド等の有害生物による漁業被害対策、有明海や瀬戸内海をはじめとする内湾等における漁場環境の改善策の検討等を推進し、漁場生産力の回復・維持のための対策を支援します。
- ・ 水産業の省コスト・省力化や安全性向上等に資する新技術の実証を支援します。
- ・ 国の重要施策の現場展開や新たな技術・知識の導入による漁家経営改善等を、国と道府県との協同事業である水産業改良普及事業により推進します。

<主な内容>

1. 有害生物漁業被害防止総合対策事業 [新規]	535 (―) 百万円
2. 漁場環境改善推進事業 [新規]	246 (―) 百万円
3. 海洋生態系保全動向調査事業 [新規]	20 (―) 百万円
4. 厳しい環境条件下におけるサンゴ礁の面的保全・回復技術開発実証事業 [新規]	150 (―) 百万円
5. 有明海のアサリ等の生産性向上実証事業	325 (325) 百万円
6. 漁場油濁被害対策	25 (25) 百万円
7. 水産業革新的技術導入・安全対策推進事業	72 (51) 百万円
8. 水産業改良普及事業交付金	69 (69) 百万円
9. ICTを利用した漁業技術開発事業 [新規]	138 (―) 百万円

6 水産多面的機能の発揮対策と離島漁業の再生支援

【4,391 (4,306) 百万円】

- ・ 漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能を発揮するための活動を支援するとともに、離島の漁業再生活動を支援します。
- ・ また、特定有人国境離島地域において、雇用機会の拡充を図るための取組を支援します。

<主な内容>

1. 水産多面的機能発揮対策	2,800 (2,800) 百万円
2. 離島漁業再生支援交付金	1,105 (1,056) 百万円
3. 離島漁業新規就業者特別対策交付金	135 (150) 百万円
4. 特定有人国境離島漁村支援交付金	351 (300) 百万円

お知らせ

～第10回海洋立国推進功労者表彰について～

「海洋立国推進功労者表彰」は、海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において特に顕著な功績を挙げた個人又は団体について、その功績をたたえ広く紹介することにより、海洋に関する理解を深めていただく契機とすることを目的に平成20年から設けられ、農林水産省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省が内閣府総合海洋政策推進事務局の協力を得て実施し、内閣総理大臣が表彰を行うものです。

本年は8月28日に「第10回海洋立国推進功労者表彰」が総理官邸大ホールにおいて行われ、4名4団体が表彰されました。

(1)「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

氏名・名称	功績事項
日本郵船歴史博物館・日本郵船冰川丸	近代日本の海運史を通じた海事思想の普及
岩手県立種市高等学校	長年にわたる潜水土の育成による海洋開発への貢献
遠藤 真（富山高等専門学校）	高専・産業界連携による海事人材育成システムの構築と発展
新潟県立海洋高等学校	高校を核にした産学官連携による地域振興とキャリア教育の推進

(2)「海洋に関する顕著な功績」分野

氏名・名称	功績事項
蒲生 俊敬（東京大学大気海洋研究所）	深海の神秘解明に挑み、海洋の未来をさぐる研究
赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会	桑名のハマグリ復活による地域の活性化
太田 進（国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所）	世界初となる液化水素タンカーの国際基準化への貢献
土屋 誠（琉球大学）	サンゴ礁生態系と共生する社会の実現への取組

詳しくは、下記のアドレスから御覧ください。

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kikaku/170828.html>

回遊魚

ゴマサバのこと

皆さんは「ゴマサバ」と聞くと何を思い浮かべますか？水産関係の方ならTACの対象魚種でマサバと一緒に管理されているゴマサバのことでしょうか。私の地元福岡では大抵の人は郷土料理である「ごまさば」を思い浮かべます。サバは足が速いこともあって、関東では塩焼きや酢でしめて食べるのが常識ですが、福岡では本当に新鮮なサバが手に入ることから、生のサバ（マサバに限る）を「ごまさば」にします。

我が家の「ごまさば」の作り方は、いたってシンプルです。新鮮なマサバを三枚におろして皮も剥いて、一口大の薄切りにします。ボウルに博多の甘口しょうゆ（我が家はニビシ醤油）を入れてサバと和えます。しょうゆが馴染んできたら、器に盛ってすりごまを振って出来上がりです。晩酌をしない我が家では、これをおかずの一品として、ごはんを食べていました。

サバは新鮮でないと食中毒の危険がありますが、福岡県沖など日本海側で獲れるマサバに寄生するアニサキスは刺身として食する部位にほとんど移動しないという特徴があるため、福岡では生でサバを食べる文化が根付いたといわれています。

大学進学で東京に来てからは、「ごまさば」を食べることはできなくなり、再びこの言葉を聞いたのは、静岡県の水産課長に就任したときです。まき網の船主さんから「今年はヒラサバがとれなくて、ゴマサバばかりだよ」と言われて、私は内心ごまさば用のサバがいるぞと喜んだのですが、よくよく聞くとマサバとは別の種類のサバで加熱して食べるか、さば節になるものとのことでした。

ここ数年、輸送技術が発達したのか東京の博多料理の店でも、「ごまさば」が出るようになりました。昔を思い出して注文するのですが、我が家で食べたのと同じ感じが違うのです。その原因は、甘口しょうゆのほかにみりんや酒を混ぜてたれを作っているためでした。「味覚は3歳までにつくられる」という説がありますが、この歳になって「ごまさば」で実証されたことに感慨を覚えています。



水産庁次長

山口 英彰

お知らせ

10月22日（日）に、長崎市の新長崎漁港で「長崎さかな祭り」と「第15回ながさき水産科学フェア」が開催され、九州漁業調整事務所漁業取締船「白萩丸」の一般公開を予定しております。日夜洋上を駆け巡る漁業取締船は、日頃なかなかお見せする機会がありません。多数の皆様の御観覧を心よりお待ちしております。

JAPAN FISHERIES AGENCY
日本の水産資源と漁業秩序を守ります！
その熱き舞台の最前線。

水産庁 しらはぎまる
漁業取締船 白萩丸 一般公開

FISHERIES PATROL VESSEL "SHIRAHAGIMARU" in NAGASAKI

第15回ながさき水産科学フェア特別参加
10.22 sun

■ 時間／09:30～15:00
■ 会場／長崎大学（環東シナ海環境資源研究センター）前
さかな祭り会場からのシャトルバス利用が便利です。

■ 内容
・ 船内各所の見学
・ 取締設備の活用体験
・ 大型双眼鏡の使用体験 etc.

発表年月日	発表事項名	担当課
H29.8.9	第6回「魚の国のしあわせ」推進会議の開催及び一般傍聴について	企画課
H29.8.22	「水産政策審議会第22回総会」、「水産政策審議会第73回企画部会」、「水産政策審議会第84回資源管理分科会」の開催及び一般傍聴について	漁政課
H29.8.25	「中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）第13回北小委員会」の開催について	国際課
H29.8.25	再編強化法に基づき資本増強を行った宮城県漁協の信用事業強化計画等の履行状況について	水産経営課
H29.8.25	資源管理・漁業経営安定対策の実施状況（平成29年6月末現在）について	漁業保険管理官 企画課 栽培養殖課
H29.8.28	第10回海洋立国推進功労者表彰について	企画課

編集後記 窓辺のカーテン

秋の味覚である「さんま」の水揚げがおもわしくなく「さんま祭り」が中止になったところもあるとか、季節のものをその時期にちゃんと食べられることはとてもありがたいことだと感じます。

「漁政の窓」では、今後も皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111（内線6505）

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

水産庁施策情報誌 漁政の窓

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>